

## 気づき、考え、行動

皆さんが2年生だった時の学年の合い言葉は「気づき、考え、行動」であったと聞いています。三送会で須永さんのスピーチにも登場していましたね。3年生になった、この1年間も「気づき 考え 行動」する姿をたくさん見ることができました。最上級生としてこの1年間、富士見中をよりよい方向に導いてくれたことに、感謝の気持ちで一杯です。

第3学年の修了式にあたり、「気づき 考え 行動」することがこれからの人生にとっていかに大切かということ、以前観た映画「おしよりん」の内容と重ねてお話をしたいと思います。映画の舞台は明治40年頃の福井県の小さな村です。福井県は豪雪地帯ですから、当時は冬になると農作業もできず、収入が途絶えてしまいました。村を救うために、映画の主人公でもある2人の兄弟が立ち上がります(実話)。兄弟は眼鏡のフレームづくりを始めたのです。ここに「気づき」があります。新聞などの活字文化が普及し始めたことから、その当時はまだ一般的ではなかった眼鏡が人々の必需品になると考えました。今では、私も眼鏡を身体の一部のように使っていますが、当時では珍しかったようです。まさに先見の明です。そして、どうすれば眼鏡をつくる技術を獲得できるのか「考え」ました。考えた結果は、最先端の職人を村に呼び、技術をゼロから学ぶことでした。そして、身に付けた技術は、数名で独占しないで村の皆で共有していきます。結論から先に言えば、令和の現在でも、日本製眼鏡の95%は福井県で生産されているのです。村の皆で最先端の技術を共有するという当時の考え・判断があったからこそ、切磋琢磨して技術を高め、後々の福井のブランドを確立することができたのではないのでしょうか。でも実際は、福井の眼鏡が世に認められるまでは苦勞の連続でした。「こんなもの売れない」と卸問屋に突き返されたり、銀行の融資を受けても資金難に陥ったり…。それでも、兄弟を中心とした村の人々は信念を曲げず「行動」したのです。よりよい眼鏡をつくる努力を続けました。

これからの時代は、グローバル化も進展するでしょう。人工知能(AI)の飛躍的な進化もあります。皆さんが生きていく社会は、これから先も急激に変化し、誰にも予測が困難なものであるはずです。だからこそ、自分の目で確認し、物事の本質に気づく力、自分の頭で考え、何かを生み出そうとする力、そして、ここという場面では全身全霊をかけて行動する力が必要なのだと思います。皆さんは3年間をかけて、久保先生をはじめとした学年の先生方から、この「気づき、考え、行動」する力を身に付けさせてもらったのです。

先ほどお話した映画の題名「おしよりん」は福井県の方言で、田畑を覆う雪が堅く凍った状態を指すのだそうです。卒業する皆さんの目の前に広がるのは「おしよりん」です。回り道をしないで、好きなところにまっすぐにいけます。皆さんが「気づき、考え、行動」する力をフルに活用し、自分の夢に向かって、まっすぐに進んでいくことを願っています。

以上、令和6年度第3学年修了式の式辞とします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣